

東北被災地復興支援(ボランティア派遣)プロジェクト 2024 募集

2011年3月に発生した東北地方太平洋沖地震から13年が経過しましたが被災地は今もなおその傷跡を残しています。本校では2012年度より毎年生徒を東北被災地にボランティアとして派遣し、活動内容を全校集会やwebページ等での報告をし、ユネスコ協会の研修会・報告会に参加しています。2012年の派遣開始当初、国連の担当者より「日本の被災地の状況と復興は、災害だけでなく戦禍の状況と復興と同じ側面がある」との話がありました。今まさに東欧での状況にも通じるものがあると考えています。

2024年度も茨木市内の高校を中心に生徒35名程度を派遣するプロジェクトを計画しています。被災地を訪れると、「いかなくってはわからない。そしてそれ以上にそのことを伝えることが大切だ」とみな言います。活動を通して、現地を知り、そして高校生同士で交流し、貴重な経験を持ち帰ってほしいと考えています。

「ボランティア活動とは・・・」、なんて難しく考える必要はありません。「まず参加してみる・・・」これが最も大切です。当プロジェクト参加がユネスコ関係の国際交流プログラムの要件になっていることもあり、本校では他校に優先して座席を確保しています。興味のある人はこの機会に是非参加申し込みしてください。なお、本活動はユネスコ・ジオパーク（三陸地域）で行い、国連SDGsの街づくり（減災・防災）にも関わっています。参加した者の中から例年、ユネスコ協会全国大会、全国模擬国連大会、日中韓ユネスコ・ユース日本代表派遣者・カンボジア派遣・ネパールボランティア派遣など様々な方面で活躍する生徒がいます。昨年度はネパール・ボランティア派遣に4名の生徒が参加しました。

昨年度の活動報告動画（参加生徒制作・1分間・8MB）は右QRコードより

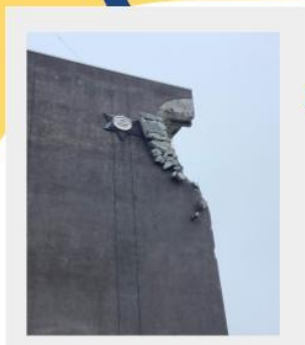


1. 事前・事後研修・被災地支援活動および交流（ボランティア活動含む）企画
2. 日時：2024年7月12日夜～16日早朝
※夏休み前の連休中に活動するため、例年3年生も参加しています。
3. 内容：被災地の視察・研修、気仙沼市内でのボランティア活動、気仙沼高校との交流・合同研修等が計画されています。
※事前研修（阿倍野防災センター・神戸防災センター・毎日新聞社等）を予定
4. 費用：39,800円程度（食費7回・保険料含む）
※実参加費より各種助成予定額（昨年度は約3万円）が差し引かれた額となっています。
5. 引率者：本校教員および他校教員
6. 募集人数：15名(応募者多数の場合は初参加者優先にて選考)
7. 応募方法等：
 - ①必要書類(応募用紙)：担当者に用紙を取りに来てください
書類配布期間：～5月2日
締切：5月6日4時45分締切厳守
提出先：LAN準備室担当者
 - ②選考方法：課題作文・面接

(参考) 訪問予定および春日丘高校の行事予定（今年は連休中に訪問します）

	被災地訪問予定	春日丘高校の行事予定
7月12日(金)	夕方7時ごろ出発	午前授業
13日(土)	陸前高田・鹿折地区・八瀬森	休業日
14日(日)	気仙沼大島・八瀬森	休業日
15日(月)	岩井崎・気仙沼高校・出発	国民の祝日
16日(火)	茨木市内へ5時ごろ着	午前授業

↓内側から見た外壁



↑外側から見た外壁

震災を経験した人から実際の状況を伺えることは、このボランティアに参加しなければ出来ないことだったし、貴重な経験だったので参加出来て良かった。



第一日目

気仙沼伝承館・ヤマヨ水産

1. 気仙沼伝承館

まず伝承館に行き、実際に震災の被害に遭った建物を見てまわった。語り部の方の解説を受けながら見てまわったので、資料に付属されている説明をただ読むだけより、深く震災について学べた。



2. ヤマヨ水産

一日目の午後にはヤマヨ水産さんのところでロープを高台に移動させるお手伝いをしました。そこでは港と高台の2つのグループに分かれて作業をしました。僕は高台のグループだったけれどロープは像していたよりもずっと重く、とても大変でした。こんなものまでが津波で流されると思うと怖くなりました。この活動を通して一見関係ないと思えることでもどこかで繋がっていること、いつ来るかわからない災害のために今できることがあるということを考えるいい機会になりました。

